

# あなたとわたし

性別や年齢の違いを超えて平等にともに手を携える関係でありたいから

vol.29  
2009.3月下旬号



## ワークライフバランスをめざして 自分らしい生き方を探る



ワークライフバランスとは、あらゆる世代の人が仕事、家庭生活、地域生活、個人の啓発など様々な活動について自らが希望するバランスで展開できる状態をいいます。

しかし現実には仕事に追われ、子育てや老親の介護との両立に悩むなど、仕事と生活の間で問題を抱える人が多く見られます。

また少子・高齢化に伴う労働力人口の減少や経済の低迷などによって、これまでのような働き方では社会が維持できなくなることが懸念されています。こうした問題を解決するためにも、今、ワークライフバランスという考え方が注目されています。

市では、自分にとっての仕事と生活のいいバランスを考えていただくことを目的に昨年11月に「シゴトとくらしのいいバランス見つけ方」講座を開きました。参加者の黒瀬さんに、ワークライフバランスについての想いや講座の感想を市民編集員がインタビューしました。

## 子育て中でも仕事をしたい自分がある…

インタビュー：市民編集員

なぜ「シゴトとくらしのバランス見つけ方講座」に参加したのですか？

妊娠中に福生に転入し、福生のことを知りたいたと、子どもを連れて児童館や公民館に足を運んでいます。公民館白梅分館の「私の語り場・仲間と話そう・ママ・妻・わたし」という事業に参加したことがきっかけになり、「早めに仕事に復帰したい」という気持ちが強くなりました。「まだ仕事に復帰するのは早い」と考えていた夫と話し合いを重ねる中、この講座に出会いました。

(次ページへ)



プロフィール：黒瀬賀子（くろせよりこ）  
昨年からは福生市在住。1月現在、生後7か月の男児の母



## 講座を受けて感じたことは？

悩んでいる時期だったので、私と同じような状況の方々が参加されているのがわかり、ほっとしました。

女性の生き方がいろいろと増えてきて、選べるようになった反面、悩みも増えてきたと思います。自分の道を選ぶためには、自分自身が納得できるものであることは当然ですが、夫婦が話し合いや時には喧嘩をしながら、はじめて男女共同参画であることがわかりました。夫にはこの子を育てる上での一番の理解者であってほしいので、しっかり話しあっていこうと思います。

## 仕事と育児や家事のバランスをどんな風にしたかと考えていますか？

講座で自分の理想と現実のバランスを書いてみるという作業がありました。受講者の多くが、仕事を減らしたいという中、私は、仕事と家事を半々くらいにしたいと思いました。自己表現できる場、生き生きしていただける場、それが私にとっての仕事の場なのです。

大学を出て、3年間システムエンジニアとして働きましたが、体調を崩してしまいました。それからどういう生き方をしたいんだろうと考えるようになり、子育てだけでなく資格を取ったり、情報網を張って、一生働いていきたいと考えるようになりました。

幸い、再就職先が見つかり、4月から働き始める予定です。子どもを預ける保育園も申し込み中です。

半世紀あまり前までの日本では夫は会社で働き収入を得る。妻は家事、出産、育児に専念する、という棲み分けが当たり前で、妻が働く場合があっても、あくまでも夫の収入を補う役という場合が多かったと思います。男女共同参画基本法制定から10年を経た今でも女性の社会参画の状況はほとんど変わっていないように感じますが、どう思いますか？

女性だから損をしている、という感覚はありませんが、夫に対して「男だから、仕事で昇りつめて行くのが当たり前ではないの？」と決めつけていた自分に気づきました。男性と女性がどのようなバランスで生活や暮らしを組み立てていけばいいのか、まだまだ思い込みや迷いがあるのだと思います。

## 女性の地位向上を望みながらも、夫に頑張ってもらいたいという気持ちが心の中にあるいませんか？

私もいけないと思うのですが、そういう考え方をしてしまうのです。私は社会的な自立を目指していますが、両親は私を女らしく育てようと思っていました。いわゆる「いい子」で育ててしまって、精神的につらくなってしまい、いまやっと自分自身と向き合っているところです。

## ワークライフバランスを進めるための市の取り組み（子育てサポート編）

**保育サービス** 市内に認可保育園12か所、認証保育所3か所があります。認可外保育施設の利用者に保育料の一部を補助する制度もあります。また、休日保育・一時保育・病後児保育も行っています。

**ふっさっ子の広場** 放課後に小学校内の施設や校庭を利用し、安全な見守りの中で、子どもが安心して楽しくすごせる「学び・体験・交流」の場です。

**学童クラブ** 保護者の就労等で放課後、家庭で適切な保育を受けられない小学校1年生から4年生までの児童を対象に、遊びや生活の場を与えて健全育成を図ります。市内に10の学童クラブがあります。

**子ども家庭支援センター** 子どもと家庭に関するあらゆる相談、子育てグループへの支援、子育て支援情報の提供を行っています。

詳しくは市のホームページ <http://www.city.fussa.tokyo.jp/> をご覧ください

男性と女性がお互いの違いを認め合い、助け合うところから、全てが始まるのではないかと…。

たぶん夫も頭では女性が仕事をすることを認めるけれども、本心ではもっと母親母親してほしいと思っている。これから育児や家事を分担していこうと話していますが、その分担も彼のイメージと私のイメージでは違うと思うのです。自分自身の納得と夫婦間での納得が大切だと思っています。

**日本は欧米に比べて、女性の社会参画に対する視点が遅れているように私は思いますが、そんな中で頑張っていくのは大変なことではないですか？**

子どもを施設に預けて働くとなると、パートの収入では、保育料でマイナスになるのが現実です。

いきなりばりばり働くつもりではなかったのですが、金銭的な面を考えるとそうせざるを得なくなってしまうのが現状です。

また就職活動の中で、母親であるということでの企業からの差別は感じませんでした。

**仕事が決まっても、お子さんを預ける所が見つからなかったら、どうなさいますか？**

そうなったら、残念でも諦めるしかありません。企業も経営が大変な中、企業内託児所などを設置している所はまだ少なく、整備されているのは一部の



企業に限られていると思います。

政府に期待したいし、地域にもまだまだ期待しています。私が仕事に復帰するのに一番難を感じた点は、預け先の施設数、時間帯、金額などのサポートの体制でしたから。

**ご自分の道を模索する中で大切だと言われている親子のスキンシップをどう保っていきますか？**

正直に言えば不安はあります。

ただ、この子がいるからやりたいことができないと思って過ごすよりは、自分のやりたいことをやって、子どもといるときは笑顔でいられるようになりたいと思っています。子どもが、親の背を見て育ち、それが将来プラスになるのを念じています。

4月から仕事が始まり、新しい生活がスムーズにいくためには、ご夫婦で話し合い、協力し合う中にバランスを保つ鍵がありそうですね。  
ありがとうございました。

## 仕事中心の社会、こんな数字が表しています

日本人は働き過ぎ？あなたは仕事と生活のバランスとれていますか？

### 週 60 時間以上

子育て世代に当たる30歳代や40歳代の男性の約20%が週60時間以上働いています。

厚生労働省「厚生労働白書」(2007)から

### 年間 4 億日

日本では年次有給休暇の取得率が低く、取得されずに放棄された有給休暇はなんと年間4億日に相当します。

経済産業省「休暇制度のあり方と経済社会への影響に関する調査研究委員会報告書」から

### 1 日 0.9 時間

日本の育児期にある夫が1日あたり育児や家事にいくら時間を使っているかの国際比較ではわずか0.9時間の最低の水準。1位カナダ3.9時間 2位スウェーデン3.7時間 3位ドイツ3.5時間

OECD、総務省「社会生活基本調査」から



## レポート

### 「シゴトとくらしのいいバランス見つけ方」講座

平成20年11月15日(土)・29日(土) 午後2時から  
場所：福生市公民館  
講師：指田祐美さん (NPO 男女共同参画おたスタッフ)



1日目は非正規雇用、少子化や貧困、介護など社会的に問題となっていることには長時間労働がかかわっており、なぜワークライフバランスが大切なのか、社会の問題を解決するのにどう役立つのかについてお話がありました。

#### ●「DVD男たちのワークライフバランス」(内閣府) 視聴

企業内託児所を設けて安心して働ける環境作りをした企業と、残業を禁止し効率化するための提案を社員が工夫する企業が登場しました。「これは理想的だけれども、なかなかこういう会社はないし、トップの考え方によってずいぶん違うんでしょうね。」などの感想がありました。

#### ●ワークシートづくり

仕事・家事・学習・地域生活・趣味の5本の柱で現実と理想を確認するワークシートを各自作成し、かなり離れていることを実感しました。また夫が長時間労働で健康面が心配、という声や、男性の厳しい労働状況が女性にも影響を及ぼしているという発言がありました。

2日目の講座では市の子育て支援についてや各自のストレス解消法について情報交換をし、自分にとっての仕事とくらしのバランスを考えてみました。

- 家族や育児のために仕事をやめるのは賃金の低い女性
- 家事・育児の主な担い手の女性は、長時間働きにくい

女性是比较的賃金の低い正規雇用の職につかざるを得ないことが多い

- 正社員の男性は長時間働かざるを得ない
- 家庭にかかわれない

ストレスがたまる・過労死

少子化

ご存知ですか？男女共同参画情報コーナー：輝き市民サポートセンター（福生駅西口プチギャラリー 4階）に各区市町村の情報誌や男女共同参画に関する資料を備えています。ご利用ください。問合せ：輝き市民サポートセンター 電話 042-551-0166

#### 市民編集員募集！

「あなたとわたし」の編集員を募集しています。興味のある方は、協働推進課までご連絡ください。

#### ご意見・ご要望をお気軽にお寄せください。

本誌は、市民がつくる市民のための男女共同参画情報誌です。ご感想をはじめ、今後特集で取り上げてほしいテーマなどのご意見・ご要望をお気軽にお寄せください。ホームページからもお送りいただけます。トップページ左側の市民のご意見箱をクリック、メールフォームをご利用ください。

- 市民編集員
- 牧野 霞
  - 寺崎敏枝
  - 柏倉利明
  - 太田正雄

企画編集 NPO法人 NAFA 子育て環境支援センター

#### あなたとわたし vol.29 2009年3月下旬号

発行：福生市 生活環境部 協働推進課  
〒197-8501 東京都福生市本町5番地  
電話 042-551-1511 (内線) 2552・2553  
<http://www.city.fussa.tokyo.jp/>

広告スペース

広告スペース